

## 41 ローゼンベルグ 『服装の歴史』 全5巻

**Rosenberg, Adolf. Geschichte des Kostüms**, von Adolf Rosenberg und text von Eduard Heyck, 5 vols. Berlin, Ernst Wasmuth A.-G., [1905—1923] 47.0×31.0 cm <383.1-R-1~5>  
Hiler p. 759 Colas 2576

古代オリエント、エジプトから19世紀前半までのあらゆる時代、あらゆる国の服装を体系的・網羅的に描いた服装史の名著。全8章から成っているが、5巻に分冊されており、図版は各巻80枚、全巻400枚を収録、色刷りとモノクロの石版画及びモノクロ写真で描かれている。第1巻のはじめに全章の目次がまとめてあるが、各章と各巻が明確に分かれていないので、各巻の内容を見るには、見づらい。ここでは各巻に分けて内容を記す。第1巻 1章 古代オリエント、エジプト(図版1~21) 2章 古代ギリシャ、ローマ(図版22~59) 3章 中世—ヨーロッパ、ドイツ圏(図版60~80) 第2巻 3章 中世—ドイツ圏、イギリス、フランス等(図版81~120) 4章 16世紀—ドイツ圏、フランス、スペイン等(図版121~160) 第3巻 4章 16世紀—ドイツ、オリエント(図版161~170) 5章 17世紀—フランス、スペイン、オランダ、ロシア等(図版171~220) 6章 18世紀—フランス、イギリス、ドイツ(図版221~240) 第4巻 6章 18・19世紀(1820年まで)—オーストリア・ドイツ(図版241~300) 7章 ヨーロッパの民族服—ドイツ、ポーランド等(図版301~320) 第5巻 7章 ヨーロッパの民族服—イギリス、バルカン半島等(図版321~364) 8章 アジア・アフリカ・アメリカの民族服(図版365~400)。

各図版には解説があり、一体一体の衣服について、着用している人物の身分など歴史的な注釈と図版の出典が記されている。

歴史服や民族服を描いた服装図版集は19世紀後半、続々と出版されたが、中でもラシネの著書(35)は圧巻であった。これに次いで20世紀に入って作られたのが本書である。リップーハイデ(Lipp.)によると、ローゼンベルグは1888年に『服装の時代発展史』Geschichte des Kostümes in chronogischer Entwicklungを3巻本で出している。おそらくこれが本書の前身と思われる。本書はハイク編、図版の多くは服装史研究家で著名なM. ティルケが担当している。本書に描いたティルケの図版は、のちの彼の著書Orientalische Kostüme in Schnitt und Farbe. 1923 <383.1-T>, W. ブルーンとの共著Das Kostümewerk. 1941 (54)などの基礎となっている。わが国においても戦後から昭和30年代にかけて出された服装史の本に引用されている。

本書には英語版The design and development of costume <383.1-R>が1925年ロンドンから出版されている。こちらは製本されておらず、プレートのまま映入り5分冊になっている。本館のものはフォリオ版ではなく縮刷版である。各巻のプレートは原書と同じであるが、解説は歴史的な注釈や出典は略され、一体ずつの服装図に簡単なキャプションだけが記されている。ただし、原書には付いていない索引が第1巻にあり、これは本文が時代ごとに分けてあるものに対し、全巻の内容を国や地域、主題で再分類してあるので、探しやすく便利である。(平井)